

会 議 録

会 議 名	令和4年度第2回東松山市市民健康づくり推進協議会					
開 催 日 時	令和5年3月16日（木）			開 会	15時00分	
				閉 会	16時15分	
開 催 場 所	保健センター1階大会議室					
会 議 次 第	1 開会 2 あいさつ 3 議事 （1）令和4年度保健事業実施状況（令和4年4月～12月）について （2）「第3次ひがしまつやま健康プラン21」アンケートの結果について 4 閉会					
公開・非公開の別	公開	傍聴者数		0人		
非公開の理由 （非公開の場合）						
委員出欠状況	会 長	上野 直之	出席	委 員	工藤 保子	出席
	副会長	荒井 和子	出席	委 員	松本 直美	出席
	委 員	盛島 美智子	欠席	委 員	佐々木 征子	出席
	委 員	田嶋 直美	欠席	委 員	中村 幸一	出席
	委 員	原 真佐巳	欠席	委 員	川田 暁子	出席
事 務 局	健康福祉部長 今村 浩之			健康推進課主査 山崎 恵子		
	健康福祉部次長 高荷 和良			健康推進課主査 宮田 洋子		
	健康推進課長 小谷野 貴久			健康推進課主査 高屋 久美子		
	健康推進課副課長 荒井 正英			健康推進課主任 舩橋 浩美		
	健康推進課主査 大石 元子			株式会社 まち研 本間 洋美		
	健康推進課主査 加藤 美春			株式会社 まち研 浜田 守		

次 第	顛 末
1 開 会	事務局：荒井副課長
2 あいさつ	上野会長
3 議 事	<p>○上野会長</p> <p>議事に入る前に、事務局にお尋ねします。</p> <p>東松山市審議会等の会議の公開に関する要綱では、公開・非公開の決定を会議に諮って決めることとなっています。</p> <p>公開の場合、傍聴希望者がいらっしゃれば傍聴いただくことになります。本日、傍聴の申込はありますか。</p> <p>○事務局</p> <p>おりません。</p> <p>○上野会長</p> <p>傍聴者はいらっしゃいませんが、本日の会議を公開の会議とし、会議資料や会議録を公開したいと思います。委員の皆様、ご異議ございませんでしょうか。</p> <p>(一同了承)</p> <p>それでは、これより議事に入ります。議事(1)令和4年度保健事業実施状況(令和4年4月～12月)について、事務局より説明をお願いします。</p> <p>○事務局：大石主査、船橋主任</p> <p>－資料1に基づき、令和4年度保健事業実施状況(令和4年4月～12月)について説明－</p> <p>○上野会長</p> <p>事務局からの説明が終わりました。ただいまの説明について、ご質問はございませんか。</p> <p>骨粗しょう症検診は、かかとの骨に超音波をあてて測定しているとのことですが、DXA(デキサ)法というX線を使って腰椎や大腿</p>

骨を検査するものがゴールドスタンダードで、それ以外の検査方法だとあまり意味がないと言われていています。個人的には見直しても良い検査なのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

加齢によって骨密度が下がっていくわけで、図表を示すと統計的には70歳を超えたくらいから、骨粗しょう症だとか、そういった注意喚起を促すといった方法でも良いのではないかと思うので、検討していただいてもいいように思います。

○事務局：大石主査

現在、当市では来年度もかかとの骨での検査を予定していますが、いただいたご意見を参考に検討させていただきます。

○上野会長

予防接種についてなのですが、予算もあるので難しいと思いますが、医師会からも提案させていただきました带状疱疹ワクチンについて、带状疱疹ワクチンはある程度効果もあり、罹患すると痛い疾患でもありますので、今後検討していただければと思います。

○事務局：船橋主任

いただいたご意見を参考に、国の動向を注視していきたいと思えます。

○上野会長

ほかに、ご意見等はございますか。

特にないようでしたら、本議案につきましては、報告のとおりとさせていただきます。

(一同了承)

次に、議事(2)「第3次ひがしまつやま健康プラン21」アンケートの結果について、事務局より説明をお願いします。

○事務局：山崎主査

—資料2に基づき、「第3次ひがしまつやま健康プラン21」アンケートの結果P.3～6「栄養・食生活」について説明—

○上野会長

アンケート結果のうち、「栄養・食生活」について、説明が終わりました。ただいまの説明について、ご質問はございませんか。

松本委員、いかがでしょうか。

○松本委員

P.5に低栄養傾向（BMI20以下）の高齢者の割合は、前期計画策定時から増加傾向とあり、P.6の主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の者の増加の項目における、高齢者の割合は、90%となっていますが、どういうことなのでしょうか。

○事務局：山崎主査

食生活の内容は良くなっているのかもしれませんが。栄養傾向を示すBMIは、身長と体重から算出しているもので、やせ気味の方が増加しているということを示しています。バランスの良い食事は摂れていてもエネルギー量が見合っていないこともあるのかもしれませんが。

○上野会長

ありがとうございました。佐々木委員いかがでしょうか。

○佐々木委員

具体的に改善に向けた指導は、どのようなものを行っていらっしゃるのでしょうか。

○事務局：山崎主査

保育園、幼稚園、小・中学校を通して、食育に関する推進をしています。青年期に対する働きかけが少ないと思いますので、今後どのような周知や指導を行ったら良いのか検討しているところです。また、コロナも落ち着いてきたので、調理実習や人を集めた講座を積極的に実施していきたいと考えています。

○上野会長

ほかに、ご意見等はございますか。

○工藤委員

P.6 食事を一人で食べる子どもの割合が、すべての年代において改善されているということで、コロナの影響もあるのかもしれませんが、朝食の中学生で、一人で食べる子どもの割合が約4割から約2割に改善されているのは、とても嬉しい結果が出たように思いました。その反面、コロナが落ち着いてきたら以前の結果に戻ってしまうのか、もしくは、この期間に中学校を通じて食育に関する働きかけをされた結果なのか、改善された中学生の結果についてお聞かせください。また、コロナが落ち着くとどのような動きになるのか、予測があればお聞かせください。

○事務局：山崎主査

東松山市の小・中学校では、「早寝・早起き・朝ごはん」をスローガンに掲げており、朝ごはんを食べることについて、学校を通じた働きかけが盛んに行われているところです。今後、コロナが落ち着くとコロナ前に戻ってしまう可能性もあると思いますので、このまま継続していけるよう保健センターからも、何か働きかけができたらと思います。

○上野会長

ほかに、ご意見等はございますか。

○中村委員

今の話に関連して、朝食の摂り方ですが、全国学力学習状況調査の結果などを見ますと、東松山市は、朝食を毎日食べている小学6年生の割合が、94.9%、中学生の割合が91.9%で、中学生になると少し減りますが、9割を超えています。P.5の結果を見ますと、15～19歳があまり食べていないように思います。朝食を食べないと1日元気に動けませんから、事務局からの説明にもありましたとおり、市内小・中学校は、早寝早起き朝ごはんをスローガンに掲げ、行っているところですが、その先の高校生や大学生に対

するアプローチができればと思いますので、何か工夫をしていただければと思います。

○上野会長

ほかに、ご意見等はございますか。

ないようですので、事務局より説明をお願いします。

○事務局：宮田主査

－資料 2 に基づき、「第 3 次ひがしまつやま健康プラン 21」アンケートの結果 P.7～11「身体活動・運動」「休養・こころの健康」について説明－

○上野会長

アンケート結果のうち、「身体活動・運動」及び「休養・こころの健康」について、説明が終わりました。ただいまの説明について、ご質問はございませんか。

中村委員、いかがでしょうか。

○中村委員

P.8「できるだけ歩くことを心がけている者の増加」が、「週に 1 回以上スポーツをする者の増加」や「地域活動参加者の増加」に比べて多いのは、歩くことは手軽にできることだからなのかな、と思います。花とウォーキングのまち東松山ですから、是非、歩いて健康になっていただきたいと思います。引き続き、歩こう会でも毎月 1 回定例会を行い、毎月 50～60 名の方に参加していただき、10km ほど歩いているのですが、参加者が固定化してきているところもありますので、もう少し多くの方に参加していただけるよう広めることが課題かなと思っています。

各市民活動センターやウォーキングセンターにおいて、コースを設定しており、ウォーキングの環境的には東松山市は整っておりますので、さらに、歩こう会でも「歩いて健康」を広めていきたいと思っています。

○上野会長

ほかに、ご意見等はございますか。

○工藤委員

P.8「できるだけ歩くことを心がけている者の増加」では、青年期の数値も高いので、世代を問わず、東松山市は「ウォーキングのまち」であることが、数字の上でも感じることができました。

P.8「地域活動参加者の増加」では、高齢期の女性の割合が、計画策定時の66.2%から、最終評価では44.6%と21.6ポイントも減少しています。地域活動に参加するのは、男性よりも女性の方が多く感じていましたが、約20ポイントも減少した原因はどのようなところになるのでしょうか。

○事務局：宮田主査

中間評価では、60.8%と計画策定時から5.4ポイント減少しながらも、60%台を保っておりましたが、最終評価では44.6%と大幅な減少となりました。要因としましては、やはりコロナによる影響が大きく、出かけることや友人と会うことなど、人が集まる場に出かけることを控えた結果なのではないかと考えています。

○工藤委員

ありがとうございます。そうしますと、こちらもコロナが落ち着きましたら、コロナ前の地域活動に戻ることを期待したいということですね。

○上野会長

ほかに、ご意見等はございますか。

ないようですので、事務局より説明をお願いします。

○事務局：大石主査

－資料2に基づき、「第3次ひがしまつやま健康プラン21」アンケートの結果P.12～14「飲酒」「喫煙」及びP.17「健康に対する考え方」について説明－

○上野会長

アンケート結果のうち、「飲酒」「喫煙」及び「健康に対する考え方」について、説明が終わりました。ただいまの説明について、ご意見等はございますか。

○工藤委員

P.17「健康管理の関心度」なのですが、関心が低い方が約2割いらっしゃいますが、こちらの方をターゲットにして「なぜ関心がないのか」といった質問項目はあったのでしょうか。政策としては、関心の低い2割の方が関心を持つようになるといった行動変容を起すことが重要なのではないかと思いますので、なぜ関心が低いのか、原因を把握されていればお聞かせください。

○事務局：大石主査

アンケートにおいて、具体的になぜ関心がないのかを問う項目は設けていません。いただいたご意見のとおり、関心が低い方の行動変容はとても重要だと考えますので、そういった方たちにどのように周知ができるのか、今後検討していきたいと思えます。

○工藤委員

続いて、P.13「多量に飲酒する者の割合の減少」なのですが、50代男性が計画策定時25.7%から最終評価では12.2%と減少し、4人に1人から8人に1人になったわけですが、これは、他の年代と比べて、成果としてはとても大きいと感じました。

○上野委員

ありがとうございました。

荒井委員、いかがでしょうか。

○荒井委員

可能であればですが、男性と女性を分けたアンケートというのは、今後考えていただければと思います。特に、共通するものです。

この間、OECDでも言われていましたが、日本の女性は睡眠時間が極端に少ない、それが例えば男女の家庭内への影響、あるいは

就業の問題、男女で給与の格差が大きくあるなど、ジェンダーの問題に引っかかってくるわけですが、そういったことで女性と男性、年齢で分けた時に睡眠時間の違いがどれくらいあるのか、またそれが育児に携わっている方とそうでない方、そういった形でアンケートをとられると、また違った角度からものが見られるのかな、と思いました。

飲酒と喫煙もそうなのですが、ほかの年代の男性も女性も下がっているにも関わらず、20代、30代、40代の女性の喫煙と飲酒は増えています。これは、日本全体として同じ傾向なので、今回のアンケート結果で、よく掴んでいただけたなと思います。

なぜ、この年代の人たちが、飲酒、喫煙をするのかということですが、ストレスを感じており、家庭内だけでなく社会的な問題としてもストレスがかなりかかっている状態なのではないかと思います。そうした方々がストレスを緩和できるような具体的な施策を行うことが必要だと思います。

基礎自治体が行えることには限りがあると思いますが、そういったところに着眼点を置くと、住みやすいまちになるのではないかと思います。女性をターゲットにした施策ばかりを行うと、逆差別ではないか、と言われることもあります。女性が住みやすいということは、すべての人が住みやすいということにつながっていくと思います。それだけ、ジェンダーによるものが大きいということなのですけれども、そうした視点から見ると、また、アンケートの見方も変わってくるので、そうした指標があると面白いかな、と思いました。

○上野委員

ほかに、ご意見等はございますか。

○工藤委員

さきほどの、飲酒のところで補足をして良いでしょうか。

50代男性の多量に飲酒をする者の割合が減ったのは、もしかしたらコロナにより、外で飲酒をする機会が減ったことかもしれません。コロナが落ち着いた後には、どのような割合になるのか、注視していただければと思います。

○上野会長

ほかに、ご意見等はございますか。

ないようですので、事務局より説明をお願いします。

○事務局：加藤主査

－資料 2 に基づき、「第 3 次ひがしまつやま健康プラン 21」アンケートの結果 P.15～16 「歯・口腔の健康」について説明－

○上野会長

アンケート結果のうち、「歯・口腔の健康」について、説明が終わりました。ただいまの説明について、ご意見等はございませんか。

川田委員、いかがでしょうか。

○川田委員

3 歳児や学生さんは、歯科に関する啓発活動をしやすいかと思うのですが、青年期や壮・中年期の方は、保健センターに足を運ぶ機会もあまりないのではないかと思います。そういった方たちへの啓発というのは、どのようなことを行っているのか、お聞かせください。

○事務局：加藤主査

健康推進課だけですと限界がありますので、近年ですと、例えば保険年金課で行っている国民健康保険加入者向けの事業や生涯学習課で行っているきらめき出前講座、きらめき市民大学などで講座を行うことも増えてきました。講座に来ていただく方は、関心の高い方だと思いますが、まずはそういった方に話を聞いていただき、その方のご家族やご友人に広めていただけるよう話をしています。

○川田委員

そういった講座があることを知らなかったのも、とても参考になりました。ありがとうございました。

○上野会長

ほかに、ご意見等はございますか。

	<p>特にないようでしたら、本議案につきましては、ご承認いただくということよろしいでしょうか。</p> <p>(一同承認)</p> <p>本議案につきまして、ご承認をいただきました。</p> <p>これもちまして、本日の議事は全て終了いたしました。</p> <p>ここで、議長職を解かせていただきます。</p> <p>皆様、ご協力ありがとうございました。</p>
6 閉 会	荒井副課長
<p>上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。</p> <p>令和 5 年 3 月 30 日</p> <p>署名委員 <u>松本 直美</u></p> <p>署名委員 <u>工藤 保子</u></p>	